

環境経営レポート

2023 年度版

【2023 年 8 月 1 日～2024 年 7 月 31 日】

発行日：2024 年 10 月 11 日



株式会社岡部機械工業

目 次

1.	組織の概要	-----	P1
2.	環境経営方針	-----	P2
3.	S D G s 取組方針	-----	P3
4.	環境経営システム組織図	-----	P4
5.	2023 年度環境経営目標	-----	P5
6.	環境経営計画と取組内容	-----	P6～P9
7.	その他の取組	-----	P10～P16
8.	13 期環境経営目標と実績のまとめ、13 期の評価と 14 期の取組-----		P16～P18
9.	環境関連法規等の遵守状況	-----	P19
10.	代表者による全体評価と見直し	-----	P20

1. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

株式会社 岡部機械工業

代表取締役 星場俊之

(2) 所在地

認証・登録対象組織

本社	徳島県阿南市才見町旭越山 25-1
才見工場	徳島県阿南市才見町旭越山 12-1
上中工場	徳島県阿南市上中町南島 221-1
橘湾事業所	徳島県阿南市橘町小勝 3 番地 電源開発(株)内
小松島出張所	徳島県小松島市豊浦町 1 日本製紙(株)内

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 管理部：岡部さおり TEL：0884-22-2750

環境事務局 管理部：土佐野絵里 TEL：0884-22-2750

(4) 事業内容

自動省力化機械・各種産業機械の設計・製作・据付工事

機械・装置等製造業並びに建設業(機械器具設置工事業、鋼構造物工事業、
管工事業、とび・土工工事業、電気工事業)

(5) 事業の規模(13 期末時)

資本金 20 百万円

売上高 14.3 億円/年

従業員 88 名

工場建物延べ床面積 3,760 m²

(6) 事業年度 8 月～7 月

環境経営方針

基本理念

私たち 株式会社 岡部機械工業は、自然と環境を大切に、持続可能な社会の実現を目指します。

機械の設計・製作を通じて、エネルギー省力化を目指し、安全・安心の自動省力化機械の提供に取り組むことで、社会全体の環境負荷削減に取り組みます。

また、産業機械の分解・点検・修理を行うことにより、今あるものを長く安全に使用することで、持続可能な社会に貢献していきます。

以上のことに取り組みながら、すべての利害関係者の方々に感謝し行動します。

方針

1. お客様に満足いただける製品を提供し、利益を生みながらも環境影響を考慮し、SDGsを目指した企業活動に取り組みます。環境に対する関心度を高めて、さらなる省エネ・省資源対策の徹底を実践します。
 - ・二酸化炭素排出量（電気・燃料 使用量）の削減
 - ・水使用量の削減
 - ・廃棄物の削減
 - ・コピー用紙使用量の削減
 - ・化学物質の適正管理
 - ・グリーン購入の推進
 - ・環境に配慮した製品・サービスの提供並びに施工
2. 環境関連の法令、規制、協定等を遵守し、顧客、地域社会に対して負の影響を及ぼさない事業活動を行います。
3. 社会貢献に努めます。
 - ・会社周辺の清掃活動の実施
 - ・災害時の避難受入れ
4. 環境経営システムを定期的に見直し、継続的に改善を図ります。
5. 社員全員がこの方針を理解するとともに、実践することで環境に対しおもいやりを持ちます。
6. この方針は、ホームページ等で一般に公表し、環境活動に活かします。

制定日： 2009 年 10 月 30 日

改訂日： 2020 年 11 月 20 日

株式会社 岡部機械工業

代表取締役 星場俊之

株式会社岡部機械工業 SDGs 取組方針

《理念》

当社は持続可能な開発目標「SDGs」に賛同し、その目標達成に向けて企業の社会的責任を自覚しながら主体的に取り組んでまいります。

《取組方針》

1. 魅力のある地域社会実現への取組み

社会貢献活動や環境保全などの取組みによって、地域の人々が安心して生活できる持続可能な社会の実現を目指します。

2. 経済活動による健全な発展と環境活動への取組み

当社の事業活動を通じて、地域経済の発展に貢献すると共に、環境影響の低減を目指します。

【当社の SDGs の取組み】

★海岸や会社周辺の清掃活動と環境保全活動



★クリーンエネルギー（再生可能エネルギー）の創出および活用



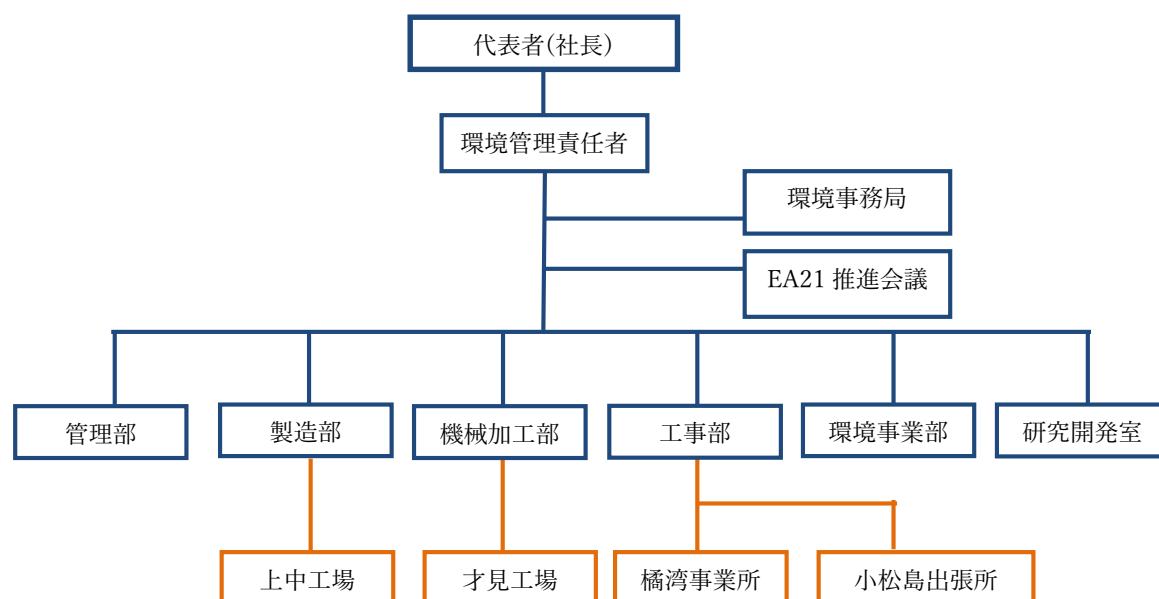
★「健康経営優良法人」の認定



★地方から全国に向けての事業の取組み発信



4. 環境経営システム組織図



※全組織・全活動を認証・登録の対象範囲とする。

	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・資源の準備（人員、設備、費用等） ・環境経営方針の策定・環境管理責任者を任命 ・代表者による全体の評価・見直し
環境管理責任者	・環境経営システムを構築・実施・管理 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規制一覧表及び遵守チェック表」の作成並びに遵守チェック ・環境経営目標及び環境経営計画の作成 ・環境経営計画の実績集計 ・環境経営の取組結果を代表者へ報告
環境事務局	・EA21 推進会議の事務局 ・「環境関連法規制一覧表及び遵守チェック表」の作成並びに遵守チェック ・特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
EA21 推進会議	・EA21 推進会議の実施 ・環境関連の勉強会の開催 ・EMS の実施とスパイラルアップ ・EA21 推進会議の記録と周知 ・内部監査の実施
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知、教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の問題点の発見・是正・予防処置
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 2023 年度 環境経営目標

環境経営目標【全社】 ※環境経営目標は当社 8 期(2018.8～2019.7)を基準年度とした。

項 目		8 期 実績	10 期 目標	11 期 目標	12 期 目標	13 期 目標	14 期 目標	15 期 目標	16 期 目標
		2018.8～ 2019.7	2020.8～ 2021.7	2021.8～2022.7	2022.8～ 2023.7	2023.8～ 2024.7	2024.8～ 2025.7	2025.8～ 2026.7	2026.8～ 2027.7
電力使用量	k W h	211,534 (基準)	207,303 (98%)	205,188 (97%)	203,073 (96%)	200,957 (95%)	198,842 (94%)	196,727 (93%)	194,611 (92%)
燃料使用量	ℓ	20,661 (基準)	20,248 (98%)	20,041 (97%)	19,835 (96%)	19,628 (95%)	19,421 (94%)	19,215 (93%)	19,008 (92%)
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	162,977 (基準)	159,718 (98%)	158,088 (97%)	156,458 (96%)	154,829 (95%)	153,199 (94%)	151,569 (93%)	149,939 (92%)
廃棄物	一般 廃棄物	kg	5,661 (基準)	5,548 (98%)	5,491 (97%)	5,435 (96%)	5,378 (95%)	5,321 (94%)	5,265 (93%)
	産業 廃棄物	kg	22,386 (基準)	21,938 (98%)	21,714 (97%)	21,491 (96%)	21,267 (95%)	21,043 (94%)	20,819 (93%)
水使用量	m ³	551 (基準)	540 (98%)	534 (97%)	529 (96%)	523 (95%)	518 (94%)	512 (93%)	507 (92%)
化学物質 使用量	kg	929 (基準)	910 (98%)	901 (97%)	892 (96%)	883 (95%)	873 (94%)	864 (93%)	855 (92%)
グリーン 購入推進	品	100% (基準)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
環境に配慮した製品、 サービスの提供及び施工		199 (基準)	209 +5件	214 +5件	219 +5件	224 +5件	229 +5件	234 +5件	239 +5件
事務所周辺の清掃活動 (回/年)		12回	12回	12回	12回	12回	12回	12回	12回
経営戦略		0回	8回	12回	12回	12回	12回	12回	12回

- ・対象事業所は全事業所とする。 ・ CO₂調整後排出係数：0.462(kg- CO₂/kWh)(四国電力株式会社 平成 30 年度)
- ・グリーン購入推進の目標については、グリーン購入したことの対象品目に対して 100%達成を目指す。

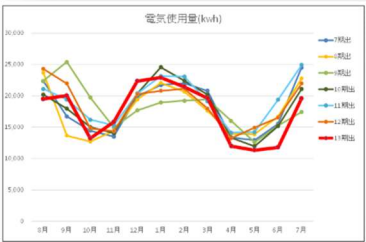
環境経営目標【建設工事】 ※環境経営目標は当社 8 期(2018.8～2019.7)を基準年度とした。

項 目		8 期 実績	10 期 目標	11 期 目標	12 期 目標	13 期 目標	14 期 目標	15 期 目標	16 期 目標
		2018.8～ 2019.7	2020.8～ 2021.7	2021.8～ 2022.7	2022.8～ 2023.7	2023.8～ 2024.7	2024.8～ 2025.7	2025.8～ 2026.7	2026.8～ 2027.7
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	14,656 (基準)	14,362 (98%)	14,216 (97%)	14,069 (96%)	13,923 (95%)	13,776 (94%)	13,630 (93%)	13,483 (92%)
燃 料	ガソリン	ℓ	606 (基準)	594 (98%)	588 (97%)	582 (96%)	576 (95%)	570 (94%)	564 (93%)
	軽油	ℓ	5,115 (基準)	5,013 (98%)	4,962 (97%)	4,910 (96%)	4,859 (95%)	4,808 (94%)	4,757 (93%)
産業 廃棄物	k g	623.8 (基準)	611.3 (98%)	605.1 (97%)	598.8 (96%)	592.6 (95%)	586.4 (94%)	580.1 (93%)	573.9 (92%)
化学物質 使用量	k g	73.0 (基準)	71.5 (98%)	70.8 (97%)	70.1 (96%)	69.4 (95%)	68.6 (94%)	67.9 (93%)	67.2 (92%)

※ 建設工事の電気・水道等は他企業と共用で把握できない為、廃棄物・燃料・化学物質を管理する。

- ・ CO₂調整後排出係数：0.462(kg- CO₂/kWh)(四国電力株式会社 平成 30 年度)

6.環境経営計画と取組内容

電力の削減	
デマンド削減の取組を引き続き行う	エアコンに注意書きのシールを貼るなど、デマンド対策への意識は浸透しているように感じましたが猛暑の為、会議中は一旦 温度を下げて稼働する事もありました。待機電力対策や、エリアを区分して空調を使用するなど、それぞれの部門で工夫されていました。 
夏季の軽装、冬季の重ね着等の工夫を行う	作業に応じた服装で調節を行い、夏場はネッククーラー・冷感スプレー等で暑さ対策をしました。 橘湾事業所では、円管服で作業していますが暑い現場用に、セパレートタイプのものを導入し、熱中症対策を行いました。  
カーボンニュートラルへの取り組み	地域の団体に協力を仰ぎ、社有地へ植物を植える等、カーボンニュートラルに向けた取り組みを検討中です。 猛暑の影響か苗が思うように育たず、試行錯誤しながら試作しています。  
改善提案など意見を集めて環境負荷削減の模索	照明を蛍光灯から LED へ交換。 日の当たる工場窓へはプラダンやシートを貼り付け、遮熱するようにして節電に努めました。  
[電気使用量(kWh) 過去 7 年間の推移] ※ 赤線…13 期 電気代は高騰し、過去最高の猛暑となっていますが、電気の使用量自体は減っています。 全部門で削減意識を持ち、節電に取り組んでいる結果だと言えます。 	

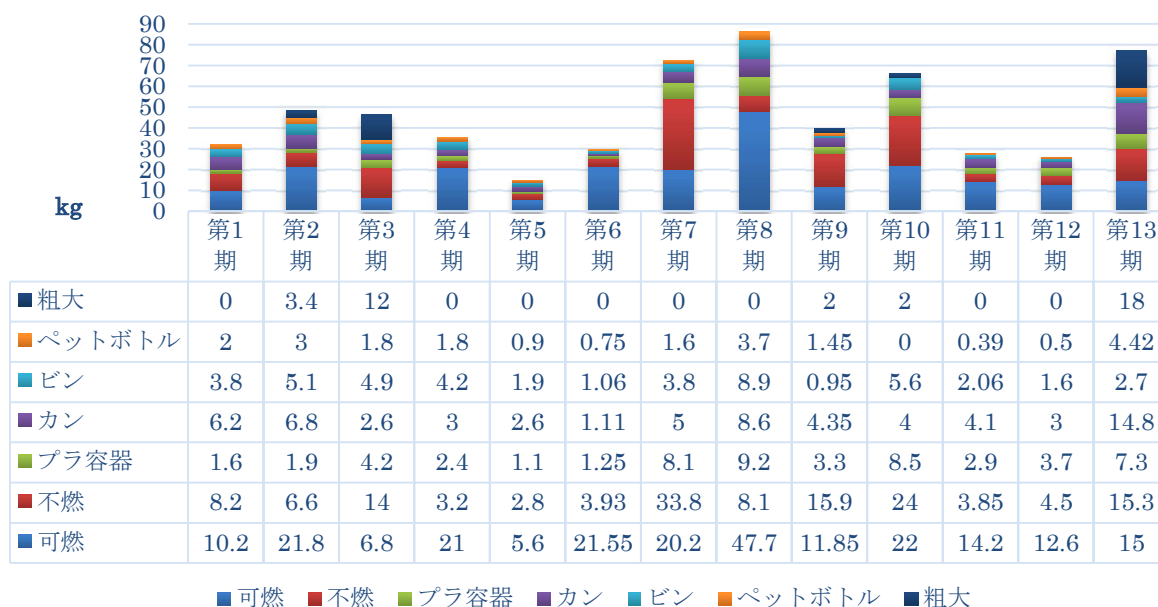
燃料の削減	
仕事内容を考え最適な車種の選択	現場へ行く際は乗り合わせや用途に合わせた車種選択をしています。
不必要な荷物は積まない	不要な荷物は置かないようにしています。
急発進、急加速の抑制	EA21 推進会議 半期集計結果を元に現状を周知し、エコドライブへの呼びかけを行いました。
エコドライブの継続的な情報提供	
高速道路走行前は給油をしておく	
一般廃棄物の削減	
ダンボールの廃棄ルールの徹底	排出量の約4分の1がダンボールです。ダンボールは出来るだけ再利用をしますが、廃棄する際はテープ等を取り除き、廃品回収に出してリサイクルしています。
会社全体での 3R の実行	ネット購入の緩衝材の紙をきれいに折ってゴミ袋に再利用しています。使用しなくなった社内機器も部品取りをし、社内でリユースしています。
ペーパーレス化	掲示板も社内イントラネットの活用が増え、電子で回覧出来ています。
必要のないカタログは受け取らない、電子化	紙のカタログを廃棄した事で、更に電子化が進んでいます。
産業廃棄物の削減	
会社全体での 3R・5S の実行	8月に鉄 990kg、9月に AL 110kg、SUS 250kg、鉄 390kg と 才見工場では有価物が多く排出されました。年に4回全部門が集まって5S委員会を開き、5Sについて話し合いをしています。各部に合った5Sチェックリストを作成し、来期は各部を巡回して相互チェックを行う予定です。
無駄な資材、機材を購入しない	大量買いせず、必要分だけ購入するようにしています。客先からのサンプル品等は引き取ってもらうようにしています。
整理して廃棄する	使用済みの機械は、分解して、使用できる物と出来ない物に分け、不要な物のみ廃棄しました。又、少量に纏めて廃棄する事が出来ました。

水使用量の削減	
適正な利用、節水に努める	夏場、暑い時期も節水を心掛けて目標達成出来ています。 今年は天井カビ除去作業、外壁苔洗浄等の作業の為、結果として水の使用量は多くなってしまいましたが、節水意識は全事業所を通して定着していると感じます。
蛇口締め忘れ防止の徹底	締め忘れはありませんでした。
地下水の利用	地下水と上水の表示を再度見直し、植木の散水には地下水を使用するなど用途に応じた使用が出来ていました。
環境にやさしい洗剤の選定	毎日の清掃や大掃除の際も、@除菌や電解水の利用が定着しています。
設備の管理、手入れ	水漏れがあった際は、業者へ連絡するなどスムーズな処置がなされ、節水意識の高まりを感じました。
化学物質使用量の削減	
在庫管理の確認を徹底する	工事部では不要な化学物質の整理整頓を行いました。
SDS 確認を徹底する	化学物質のリスクアセスメントを行いました。SDS を確認し、製造部のパークリーナーは、PRTR 対象物質を含む物から対象外の物へ変更し、その結果 使用量の削減へ繋がりました。
リスクアセスメントを実行する	
緊急時漏洩訓練の実施	2023 年 11 月 22 日、本社にて漏洩訓練を行い、51 名が参加しました。必ず保護具を着用し、適切に拭き取り、絶対に外に洩らさないという一連の作業を行う事で、普段の業務での安全作業に繋がっています。 
最終処分の確認	SDS を確認し、処分に合った業者へ委託して廃棄しています。
グリーン購入の推進	
グリーン対象商品購入数集計	プラ製品の購入は出来るだけ控え、紙（再生紙）製品の購入を心掛けています。

7.その他の取組

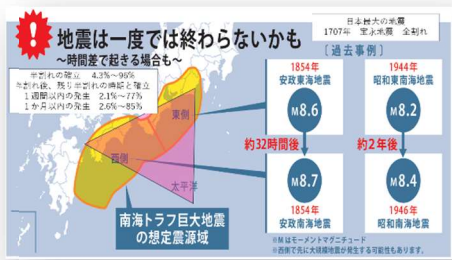
会社周辺の清掃活動の実施(毎月1回実施)

	2023 /08	2023 /09	2023 /10	2023 /11	2023 /12	2024 /01	2024 /02	2024 /03	2024 /04	2024 /05	2024 /06	2024 /07
参加人数 (人)	47	22	40	13	30	11	38	21	43	13	43	21
総重量 (kg)	40.5	1.15	2.8	2.25	2.52	1.3	7.3	1.75	6.7	2.5	5.2	3.55

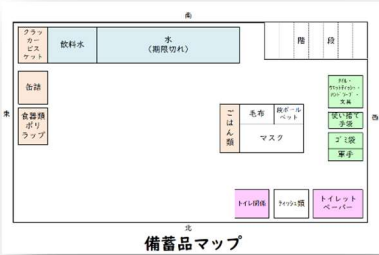


昨年よりも 50kg ほど量が増加しています。残念ながらゴミはなくなりませんが、行政にも働きかけを行い、地域の皆さんと一緒にきれいなまちづくりを目標に、これからも活動していきます。

BCP 策定



災害時の避難訓練と備え

【備蓄品】 白米 炊込ご飯等 缶詰 ビスケット 飲料水 ティッシュ 毛布 段ボールベット 他	災害時の備蓄品置き場のマップを修正しました。被災時によりスムーズに行動できるよう準備しています。 	【避難訓練】2024年5月14日62名参加 年に1度の避難訓練を行いました。今回は県南部県民局 地域創生防災部と県立南部防災館の方が来社され、起震車により震度7の揺れの体験を行いました。 
---	--	--

SDGs への取り組み

17 のゴール	ターゲット(169)
	1.4 貧困層及び脆弱層が、経済的支援についても平等な権利を持つことができるように確保する ・フードバンクとくしま（フジグラン阿南内）に、会社の備蓄品や個人からの品を寄付  
	3.3 エイズや結核、マラリア、熱帯病などに続き、伝染病や感染症への対応を求め、新型コロナウイルス感染症対策への対応を求めている ・次亜塩素酸水の利用 3.4 非感染症疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて減少させ精神保健及び福祉を促進する ・「健康経営」を通して従業員の健康を経営的な視点で考え、戦略的に実践している。本社設置ドリンク自動販売機での「AWA がん対策募金」への寄付 ・社内での産業カウンセリング定期実施

3 すべての人に 健康と福祉を 	3.6 世界の道路交通事故による死傷者を半減させる ・全社有車にドライブレコーダーを設置 ・アルコールチェッカーによる毎日の検査を行い安全運転を徹底 ・社有車の点検、洗車の外部委託 ・通勤車両の各種保険、通勤マップの確認 3.9 2030 年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる ・化学物質使用部門でのリスクアセスメント実施 ・保護具着用管理責任者、化学物質管理者の任命 ・漏洩時訓練の実施 ・月例 安全パトロールの実施 3.a すべての国々において、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約の実施を適宜強化する。 ・禁煙動画セミナー「たばこはなくても大丈夫」上映を 喫煙者を対象に実施
4 質の高い教育を みんなに 	4.5 2030 年までに教育におけるジェンダー格差を無くし、障がい者、先住民及び脆弱性な立場にある子供など脆弱性があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等なアクセスができるようにする。 ・インターンシップ(阿南光高等学校)・段ボール回収 (大地あなん)
5 ジェンダー平等を 実現しよう 	5.1 あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。 ・「えるぼし」認定 行動指針に『女性技術者を 2 名以上』を目標に掲げています 5.2 人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。 ・ハラスメント予防リーフレットを毎月配布 ・ハラスメント予防講習を毎年開催 ・「ハラスメントは許しません！」と社内外へ宣言 (パワハラ・セクハラ・カスハラ) 5.4 公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供並びに各国の状況に応じた責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識評価する。 ・男性の育児休業取得率 現在 100% ・育児休業、介護休業における復帰支援  

5 ジェンダー平等を 実現しよう 	5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。 ・業種別の女性の管理職率 製造（はん用機械） 全国平均 3.6% 当社 18%
6 安全な水とトイレ を世界中に 	6.3 汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な差I利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。 ・年に一度、化学物質の漏洩訓練を実施 6.4 全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続的可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。 ・節水、日常点検の呼びかけ・本社敷地の地下水を植木の散水に利用（地下水表示の見直し）
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 	7.3 世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる ・エコアクション 21 での電力使用量、料金を毎月全社内へ展開 ・毎日のデマンド管理 ・エアコン使用時はサーキュレーターも併用 ・直射日光はできるだけ遮熱   7.a 再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。 ・本社 屋上他 計 3 か所に太陽光発電設備を保有、メンテナンスを行っています
8 働きがいも 経済成長も 	8.5 若者や障がい者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用および働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する ・インターンシップ受け入れ 及び 雇用促進 ・段ボール回収業務を「就労移行支援事業所」へ依頼  

9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	9.2 包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、各国の状況に応じて雇用及び GDP に占める産業セクターの割合を大幅に増加させる。後発開発途上国については同割合を倍増させる ・研究開発室での画像処理技術 開発
10 人や国の不平等をなくそう 	10.3 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、並びに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する ・女性の育児休業 100%取得の為に、「育児支援シート」を作成 男性の育児休業該当者にも配布し、フォローしている
11 住み続けられるまちづくりを 	11.3 包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。 ・近隣の会社と共に、会社周辺ゴミ拾いを毎月一回実施 分別し、市が回収 11.7 女性、子供、高齢者及び障がい者を含め、人々に安全で包括的かつ利用が安易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。 ・才見工場内に 市が「防災倉庫」を設置して、近隣住民用の備えをしています
12 つくる責任 つかう責任 	12.4 合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する ・化学物質の在庫管理(SDS 管理) ・化学物質管理者、保護具着用管理責任者の任命 ・漏洩訓練の実施 12.5 廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。 ・ゴミ分別の徹底(パトロール実施) ・循環資源の管理と推進 (使用済みトナーや電池は量販店へ) 【回収 BOX】  12.6 特に大企業や多国籍企業などの企業に対し、持続可能な取り組みを導入し、持続可能性に関する情報を定期報告に盛り込むよう奨励する。 ・エコアクション 21 環境経営レポート作成 ・環境経営レポートを自社ホームページで公開し、玄関に設置して持ち帰り可としています 12.7 国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達の慣行を促進する。 ・エコマーク製品、グリーン製品の積極的な購入促進

	12.8 人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようになる。 ・通勤に徒歩や自転車出勤 ・地域のワークイベントで学ぶ
13 気候変動に具体的な対策を 	13.1 全ての国々において気候関連災害や自然災害に対する強靱性及び適応の能力を強化する ・BCP を策定し、定期的に BCP 図上訓練や避難訓練を実施
14 海の豊かさを守ろう 	14.1 海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し大幅に削減する ・阿南市ビーチクリーン/リバークリーン活動へのボランティア参加を推奨

取組 EA21 推進会議

年に2〜3回、各部を代表した部員が、会社・家庭での環境への取組についての話し合いや、当番制で勉強会を実施しています。環境への知識や意識を深めていくことが狙いとなっています。
今期は 計3回 開催されました。

2023 年 10 月 24 日(火) 13:00〜13:50 12 名

- ・EMS 記録 12 期の実績について
- ・ゴミ清掃員の日常より抜粋



- ・勉強会【「処理水」の海洋放出について知る】
研究開発室 佃



2024年2月22日(木) 12:55~13:20 13名	
・13期半年間の集計結果について ・岡部機械工業が参加しているボランティアについて	・勉強会【デコ活について】 管理部 岡部
	
2024年5月23日(木) 12:55~13:30 13名	
	・勉強会【グリーン購入について】 製造部 山本 

8. 13期環境経営目標と実績まとめ、13期の評価と14期の取組

環境経営実績【全社】 13期 2023年8月~2024年7月

項 目		13期 目標	13期 実績	達成率 (%)	評価	
		2023.8～2024.7				
CO ₂ 排出量		kg-CO ₂	154,829	151,370	102	○
電力使用量		k W h	200,957	209,697	96	○
燃料類		ℓ	19,628	21,894	90	○
廃 棄 物	一 般 廃棄物	kg	5,378.0	3,311.4	162	○
	産 業 廃棄物	kg	21,267.0	17,612.4	121	○
水使用量		m ³	523.0	529.0	99	○
化学物質 使用量		kg	883.0	83.4	1059	○
グリーン購入推進		品	100%	100%	100	○
環境に配慮した製 品、サービスの提供 及び施工		件	224	279	125	○
事務所周辺の 清掃活動		回	12	12	100	○
経営戦略		回	12	12	100	○

<評価基準> ○：90~100%、 △：70~89%、 ×：70%未満

環境経営実績【建設工事】 13期 2023年8月～2024年7月

項 目		13期 目標	13期 実績	達成率 (%)	評価
		2023.8~2024.7			
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	13,923.0	20,733.8	67	×
燃料類	ℓ	5,435.0	8,058.45	67	×
産 業 廃棄物	k g	592.6	343.0	173	○
化学物質 使用量	ℓ	69.4	32.00	217	○

※ 建設工事の電気・水道等は他企業と共用で把握できない為、廃棄物・燃料・化学物質を管理する。

<評価基準> ○：90～100%、 △：70～89%、 ×：70%未満

※建設工事の電気・水道等は他企業と共用で把握できないため、廃棄物・燃料・化学物質を管理する。

13期の評価【全社 建設工事】

電力の削減
目標値 200,957kWh のところ約 4%オーバーの 209,697kWh でした。今年は例年よりも更に暑い夏で厳しい環境でしたが、全員が省エネに取り組み、昨年よりも使用量は抑えられています。エアコン使用時はエリアを区分し、照明は LED に交換、デマンド管理の徹底、工場のガラス窓には簡易でプラダンやシートを貼って遮熱するなど各自が工夫し、体感温度を下げて節電に努めました。
燃料の削減
全社目標 19,628L に対し、使用量が 21,894L となり、11.5%のオーバーとなりました。去年は 21,527L で、去年よりも多く使用しています。現場が遠い場所にある等仕事にもよりますが、乗り合いが出来る場合はなるべく行い、使用車両数を減らす工夫をしています。今期は、社内イントラネットで「エコドライブ」や「タイヤ空気圧チェック」について周知をしました。
一般廃棄物の削減
一般廃棄物排出量は、目標値が 5,378 kg に対し、3,311kg の排出量で、目標の約 60%と大幅に達成する事が出来ました。 沢山あった設計課のカタログは電子化され、緩衝材の再利用も徹底出来ています。ダンボールも地域小学校の廃品回収へ働きかけるなどし、リサイクルと同時に地域支援に繋がっています。
産業廃棄物の削減
産業廃棄物排出量は、目標値が 21,267 kg に対し、17,612 kg になり、年目標はクリア出来ました。産廃箱に廃棄物を入れる際は、そのまま出すのではなく、細かく分別し、リサイクルできるものはリサイクルへまわし、有価物として排出する事が出来ました。
水使用量の削減
水使用量は、目標値が 523 m ³ に対し、529 m ³ と、惜しくも 1%オーバーしました。今年は外壁の洗浄等があり、水を大量に使用しましたが、普段はかなり節水意識が定着出来ています。
化学物質使用量の削減
化学物質のリスクアセスメントを行いました。PRTR 法対象物質が含まれるパーツクリーナーのものをやめ、対象物質でないものを使用することにより、使用量の削減が出来ています。工事部では不要な化学物質の整理整頓を行い、管理しやすい環境にしています。新人の入社時研修の他、毎年 1 回溶剤・油の漏洩訓練を全社員で実施しています。
グリーン購入の推進
廃棄時を考え、プラ製品の購入は控えて紙製品を購入するようにしています。100%を維持する為に種類を増やしていきたいと考え、周知しています。

環境配慮製品の開発・販売促進
製品開発、販売促進までは至っておりませんが、環境事業の発案を社内で募集し、検討を進めています。又、定期的に地元で開催されているビーチクリーン・リバークリーンイベントの周知を行い、沢山の方に参加してもらい、定着してきています。
経営戦略
新卒採用だけでなく中途採用についても、どの部署でも難しい状況が続き、対策としてホームページの充実や有料採用サイトの利用で求人の幅を広げています。積極的に地元就活フェアにも参加し、工場見学に繋げることが出来ました。社内「未来会議」からの提案で、人事考課にスキルマップを組み込み、試用を始めました。それによって人事考課への不満解消だけでなく、管理システムの見直しや、ハラスメント対策を含めた教育の重要性を再認識し、社外教育へと学びの機会を増やす事で社員満足度を高め、社内風土を育む取組みへと進めています。EA21 推進会議での環境への取組や、勉強会の継続で、従業員に省エネ対策が水平展開できていると感じています。より実務に沿った電力削減や、個々の取組だけでなく会社全体での環境経営が、客先からも求められつつあると認識しています。今後は CO ₂ 排出データ分析をもとに現状を把握し、無理なく有効な削減方法を、他社事例を学びながら自社にあった対策を講じていきたいと考えています。

14 期の取組【全社 建設工事】

<u>電力の削減</u> ・ デマンド削減の取り組みを引き続き行う ・ 夏季の暑さ対策として作業服の変更、冬季の重ね着等の工夫を行う ・ カーボンニュートラルへの取り組み ・ 改善提案など意見を集めて環境負荷削減の模索	<u>水使用量の削減</u> ・ 蛇口の、閉め忘れ防止の徹底 ・ 環境にやさしい洗剤の選定 ・ 用途に応じた地下水の利用 ・ 水道設備の管理、手入れ
<u>燃料の削減</u> ・ 仕事内容を考え最適な車種の選択 ・ 急発進、急加速の抑制 ・ 不必要な荷物は積まない ・ エコドライブの継続的な情報提供 ・ 車両の適正な整備と管理	<u>化学物質使用量の削減</u> ・ 在庫管理の確認を徹底する ・ SDS 確認を徹底する ・ リスクアセスメントを実行する ・ 緊急時漏洩訓練の実施 ・ 最終処分の確認
<u>一般廃棄物の削減</u> ・ ダンボール廃棄ルールの徹底 ・ 会社全体での 3R の実行 ・ ペーパーレス化 ・ 必要のないカタログは受け取らない、電子化	<u>グリーン購入の推進</u> ・ グリーン対象商品購入数集計 ・ グリーン対象商品の周知 ・ 部署単位での商品の検討
<u>産業廃棄物の削減</u> ・ 会社全体での 3R と 5S の実行 ・ 無駄な資材、機材を購入しない ・ 整理して廃棄する ・ 先入れ、先出しの徹底	<u>環境配慮製品の開発・販売促進</u> ・ 環境に配慮した提案、設計、施工を行う ・ 環境に関する教育、周知を行う ・ 環境に関するアイデアの探求と水平展開

9.環境関連法規等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	法規の基準・規制値	規制の適用・該当施設	遵守
浄化槽法	・浄化槽設置の届出 ・法定検査、点検、清掃結果の届出	浄化槽	○
騒音規制法	・特定施設の届出 ・地域住民の苦情への対応	圧縮機（県条例 3.75kW 以上） 【徳島県生活環境保全条例】	○
振動規制法	・特定施設の届出 ・地域住民の苦情への対応	圧縮機（県条例 3.75kW 以上） 【徳島県生活環境保全条例】	○
廃棄物処理法	・産業廃棄物の委託契約の締結 ・マニフェストの適正管理 ・廃棄物置き場の保管基準遵守	・一般廃棄物 ・産業廃棄物	○
化学物質排出把握管理促進法	・化学物質の適正な管理	シンナー、塗料類	○
フロン排出抑制法	・フロン類の適切な処理	エアコン	○
労働安全衛生法	・特定化学物質、有機溶剤等を使用する際の作業環境改善	特定化学物質・有機溶剤	○
特定化学物質障害予防規則	・特定化学物質を使用する際の作業環境改善	特定化学物質（使用実績無し）	○
有機溶剤中毒予防規則	・有機溶剤を使用する際の作業環境改善	有機溶剤	○
電波法	・特定施設の届出 ・地域住民の苦情への対応	超音波洗浄機（型式指定）	○
家電リサイクル法	・指定家電の回収処理	テレビ、冷蔵庫、エアコン、洗濯機	○
小型家電リサイクル法	・指定小型家電の回収処理	電話機、デジカメ、P C 等	○
自動車リサイクル法	・自動車の回収処理	自動車	○
消防法	・指定数量以上の危険物の保管	軽油等	○
高圧ガス保安法	・高圧ガス置場における保管	酸素、CO ₂ 、L P G、アセチレン	○
省エネ法	・原油換算し、使用原油量の把握 ・原油 1500 k L 使用すると特定事業者になり届出が必要	・電気・灯油・燃料 ・特定事業者には該当しない	○
徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例	・温室効果ガスの排出量の把握 ・温室効果ガス排出の抑制 ・特定事業者は、地球温暖化の防止に関する計画書を作成し、知事に提出	・CO ₂ 排出量 ・計画書等は該当しない	○
阿南市環境基本条例	事業者の責務・・・自然環境との調和に配慮しその責任と負担に於いて必要な措置を講じる		○

環境法規制等の逸脱はなく、関係当局より違反等の指摘、並びに訴訟等はありません。

また、関連当局よりの違反等の指摘は過去 3 年間ありません。

10.代表者による全体の評価と見直し・指示

13期の期首総会で環境行動目標について、以下の3点を説明致しました。

- ・超高齢化社会に向けた理解と行動を行おう
- ・脱炭素社会に一人ひとりが取り組もう
- ・フードロスを実際に減らしていこう

異常なまでの気候変動により、生活環境が変わってしまった方々を見るたび、個人として一企業として何か出来ないかと思う事が多くあります。企業努力だけでは問題を解決しづらい外的要因が差し迫っており、採用や事業運営に対しても影響が出ているものがあります。当社でも様々な課題に向き合いながら、一人ひとりが出来る事を机上で一生懸命考えるのではなく、行動として実践していく事が大切だと考えています。

1年を振り返ってみますと全体的な取組みにおいて、脱炭素に向けた取組みによる良い結果が出た部分とそうでない部分が見られているが、総じて見ると脱炭素への取組みが広がってきています。特筆すべき点として、13期は前年対比の売上が約4%アップし事業活動が増えた中、そして毎年厳しくなる温暖化による夏場の高温環境作業の中でも電気使用量が2期連続で削減出来ています。これは個人個人が工夫をして暑さ・寒さを乗り切ろうと意識している事が見て取れます。

また、継続的に実施している会社周辺ごみ拾いやビーチクリーンへの参加は、小さな取組みかもしれませんが、水資源や森林環境保全に役立つと共に、新たな取組みとしては社内回覧資料等のデータ化によりペーパーレスも進められてきています。デジタル化が進み我々の生活も様変わりしており、事業活動においてもDXを取入れながら環境負荷軽減を図っていく必要があると感じています。

14期はカーボンニュートラルに向けた取組みを進める目標を掲げました。改めて基本に立ち返りながら、E A 2 1の取組みの意義や事業活動における環境影響を考え、未来に向けた意思表示が出来ればと考えています。

まだ見ぬ孫の世代が過ごしやすく明るいものである事を願っています。

株式会社岡部機械工業

代表取締役 星場 俊之



環境経営方針	変更無	—
環境経営目標・計画	変更有	事業所間での部署の移動や稼働面積の増加など様々な変化があった為、8期から13期の6年間の環境負荷の平均値を基準として、14期はその平均値のマイナス1%を目標とする。
実施体制	変更有	社内効率を考え、組織を変更する。